２０２５年度

事 業 計 画 書

自　　２０２５年　４月　１日
至　　２０２６年　３月３１日

① 統括事業部 事業計画　・・・・・・・・p1
② 法人事務センター 事業計画　・・・・・・・・p2
③ 清風荘 事業計画　・・・・・・・・p3
④ さわの風 事業計画　・・・・・・・・p4
⑤ じゅらく 事業計画　・・・・・・・・p5
⑥ 清湖園 事業計画　・・・・・・・・p6
⑦ ほろん 事業計画　・・・・・・・・p7

社会福祉法人　ゆたか会

2025 年度　統括事業部　事業計画

計画方針

1、　法人理念「隣人愛のもと誰もが安心して暮らせるよう、湖西地域の特性を活用して、地域社会の人々の思いに応える」の浸透および行動促進を実現していく。

2、　社会福祉法人として地域に踏み出し、地域の方々から支持されるべく、新たに「統括事業部」を立ち上げ施設の枠を超えた組織体制を構築する。

3、　法人各拠点の機能を活用し「地域の課題」に対応していく。また、その過程において関係人口を増やしていくとともに、「ゆたか会の仲間づくり」の活動を展開していく。

4、　民間同士の協働を促進。福祉の分野を超えたプラットホームづくり「さまざまな社会活動・経済活動」により地域共生社会の実現を推進していく。

5、　「法人経営のガバナンスの強化と財政基盤の安定」を実現させるため、各事業の分析と再評価、将来を見据えた変革の一手を模索しつつ中期計画の策定を行う。

重点実施施策

1、【広報採用ラボ】

従来の就職サイトや人材紹介、ダイレクトリクルーティング等に依存せず、【ふくしデザインゼミ】など「ミートアップ」を軸に「インターンシップ」「リファラル採用」を強化する。また「法人サイト・オウンドメディアリクルーティング」や「ＳＮＳリクルーティング」に繋がるようホームページ、インスタグラム、フェイスブックを通じ「魅力のある地域と職場」を発信していく。

2、【ひろがりつながるプロジェクト】

「多様な主体による地域活動の展開における出会い・学びのプラットホーム」
個別支援から派生する社会資源の創出、仕組み、工夫の考案の促進を清湖園１階地域交流スペースを軸に展開していく。またふくしデザインゼミから生まれた「ぽこ」の活動とも連携し、ひらかれた施設づくりを行う。

3、【未来のほろん】

「地域生活支援センターほろん」のスペースを活用し、就労移行支援事業とその他の福祉事業との協働により総合相談（支援）機能を強化発展させていく。また民間との協働力を高めつつ、「『支援される人』として固定化されない活躍の機会を多様につくり出す場」を目指していく。

4、【高島ふくしデザインセンター設立準備プロジェクト】

市内４法人と連携し、高島市や各法人の現状、課題、展望などを持ち寄り、対話を重ね、相互理解を深めつつ連携と協働のあり方や方法を検討していく。また、ゆたか会としては「選ばれる法人」から「協働する法人」への意識転換を推し進める。

5、【外国人材の活躍推進・福祉的高度外国人材の育成】

外国人との共生社会の実現は避けては通れない課題である。ゆたか会で働く外国人が地域に参画し、多文化共生の担い手となり、ひいては法人理念を理解し実践する職員となれるよう育成し、相互理解を深めていく。

福祉も 高島も　自分も ゆたかに”

ゆたか会

【ゆたかなかたち】　（新・法人ロゴマーク）
笑った時や、おいしいものを頬張るときの口元をモチーフにしたロゴマークです。
既存ロゴのモチーフであるハートのイメージも踏襲しつつ、人の想いを受け止める器（うつわ）のようでもあり、どことなく「ゆたかさを」を連想させるようなカタチです。
また、シンプルな輪郭線で構成されたマークなので、変形させることで、さまざまな表情を表現できます。

2025 年度　法人事務センター事業実施計画

計画方針

“高島も 福祉も 自分も ゆたかに”をスローガンに
「魅力ある地域と職場づくり」に取り組む

1、法人理念「隣人愛のもと誰もが安心して暮らせるよう、湖西地域の特性を活用して、地域社会の人々の思いに応える」の浸透および行動促進を実現していく。
2、これまでに培ってきた専門性と地域ネットワークを最大限発揮し、地域づくりに貢献していくことを使命とする。また、地域の生活課題を解決するため、地域住民を含め様々な主体が参画・協働し、包括的な支援体制・共生社会の構築を目指す。
3、「法人経営のガバナンスの強化と財政基盤の安定」を実現させるため、経営指標分析によるリスクを読み解き対応・対策を進めていく。

実施重点項目

魅力ある職場づくり、人材の確保、業務省力化、財務基盤の安定を重要課題と位置づけ、下記の６項目を重点実施項目とする。

1、地域福祉において主体的な役割を果たしていくため、本人や世帯の属性を問わない支援等の実施や、地域の福祉ニーズを踏まえた社会資源の創出、及び職員の視野を広げることを目的とし「つながり広がりプロジェクト」の活動を継続する。
- 介護、障がい、子ども・子育て、生活困窮者のすべてが利用できる寄り合いの場を設け、要支援者等と地域のつながりを形成するとともに地域での見守り体制を構築。また、つながりや参加の支援、狭間のニーズにも対応できる参加支援体制を強化していく。
- 人材確保と育成・定着のため、「広報採用ラボ」採用チームを主軸とし、地域との連携・人との繋がりを広げる活動をさらに促進させていく。また、SNS 等を活用した広報活動を引き続き強化していく。

2、研修委員会、リスクマネジメント委員会、要望等解決委員会、防災対策委員会、安全衛生委員会の各委員会、並びに、ゆたか会カレッジ、プロジェクト等との連携とつながりにより安心して働ける職場環境づくり、働きがいのある職場づくり、組織の活性化を図る。

3、ICT「Information and Communication Technology（情報通信技術）」の活用により、情報共有体制の強化および業務省力化を図っていく。

4、【フードサービス】おいしくゆたかな食の提供を基本に、ご利用者に寄り添った食事・栄養ケアを多職種連携で行う。広い視野で、食を通して人と人をつなぎ、こころゆたかな暮らしを創造していく。

5、中期計画（修繕計画）をもとに、大規模修繕等の優先順位を常に評価し、計画的な資金運用のもと施設の維持管理にあたる。また、各種補助金・助成金の情報に注視してより有利な資金繰りを検討していく。

6、設備資金借入金の償還（さわの風・清湖園・ほろんの建設分、清風荘改修分）が遅滞なく行えるよう資金計画を進める。

2025 年度　清風荘 事業計画

定員：施設入所 90 名・短期入所 20 名

ゆたか会の理念である「隣人愛のもと誰もが安心して、湖西の地でこころゆたかに暮らせるよう、この地の特性を活用して、地域社会の人びとの思いに応えよう」をどう具現化していくのか、前年に引き続き考えていく。施設に入居している利用者の皆様も地域の人であることを再認識し、感染症予防の観点を持ちながらも、ゆるやかに地域とのかかわりを広げ、周辺地域と連携しながら施設の内と外を繋げられる活動を展開していく

基本活動方針

“好きです、ゆたか会”　　“高島も福祉も自分もゆたかに”

地域に存在する福祉施設従事者として、地域で生活する人として、成長をしていく

1．サービスの質向上

①安心・安全な暮らしを守るため日常の関りを常に振り返り「不適切な芽」を摘み取ることで高齢者虐待防止の推進を一層図る

②安心・安全な生活を送るため日常的な感染予防と発生時の適切な対応ができる力をつける。また自然災害への対応力強化も継続して取り組む

③安心・安全な生活を支えるための技術・知識・姿勢を再構築していく。目の前の「人」と向き合う

④日常生活の中にある「楽しみ事」を大切にする。食べる楽しみ、参加する楽しみなど他職種協働で取り組み「一緒に楽しむ」を広げていく

⑤目標管理活動、3S 活動、個人面接の実施により職員相互の問題解決能力、コミュニケーション能力、チーム力向上を目指す

⑥定期的に意見の出し合える場づくりを行い、暮らしやすい施設となれるように利用者・職員の想いをまとめていく

2．財政基盤の安定と設備改修

①収益の確保に向け、計画的かつ効率的な事業運営を行う

目標稼働率：入所96%　　円滑な入退所支援、健康的な生活が送れる支援

短期入所 75%　　空き情報の発信と特養空所活用

②各種加算取得を再検討し、収益増加に繋ぐ

③ICT 化の促進　補助金の活用を常に検討し業務の効率化を目指す

3．働き甲斐のある職場の実現のために

①福祉の魅力を発信できる体制づくりに取り組み、やりがいを見いだせる組織をつくる

②法人理念の具現化に向けて、法人委員会やプロジェクト等と連携して職場の活性化を図る

4．地域における公益的な取組み

①子どもの居場所づくりとして「フリースペースゆったり」の提供を清湖園と共に行う

②地域防災力向上のための地域ネットワーク構築を目指す

③実務者研修の開催を通じて地域の人材育成を行い、地域福祉に寄与する

④地域サロンを周辺事業所と協力し実施する

⑤市内の福祉事業者、企業と連携し地域での活動を模索しながら、まちづくりへの貢献をしていく

2025 年度　さわの風　事業計画

定員（登録）：施設入所 29 名・短期入所１名・小規模多機能 24 名

法人理念　「隣人愛のもと誰もが安心して、湖西の地でこころゆたかに暮らせるよう
この地の特性を活用して、地域社会の人々の思いにこたえる」

地域密着型施設として、事業所を拠点とした地域づくりをより一層推進し地域との連携を強化する。地域ニーズの把握と、さわの風として何が出来るかを探りながら共に行動する。交流を活発に行い理解や協力を得て、施設の密室性や閉鎖性の解消に取り組む。地域や家族との利用者の繋がりを重視した個別ケアを行い、職員ともに親密な関係を築き、双方が満足できる生活を提供する。

活動方針

『高島も　福祉も　自分も　ゆたかに』
お一人お一人をもっと知り「さわの風で良かった」と思っていただける施設となる
この地域に生きる一人の人として、この職場・この仕事を通じて成長出来るよう努力をする

1　サービスの質の向上

① 利用者と共に地域に出て様々な世代の人との交流をし、利用者職員共に地域住民の一人として過ごす時間を持つ。

② 災害時における相互協力の為、地域との連携を強化する。地域との防災協定を基に相互の防災訓練への参加や平常時からのやり取りを持ち有事の際に備える。BCP計画を基に、計画的な訓練を実施していく。

③ 本人・家族が望む人生の最後を一緒に寄り添い、後悔の少ない看取りができるように支援していく。看取り後のカンファレンスや施設内研修を実施することで職員の精神的な負担の軽減を図り質の向上に努める。医療的ケア（喀痰吸引等研修）も引き続き受講をすすめ、安楽に過ごせる環境の整備に努める。

④ 安心安全でおいしい食の提供を基本に、利用者が満足できる食事を提供する。
地域で生産された新鮮な野菜などを使い、生産者と連携しながら安心・安全な食事の提供や地域経済の活性化につなげる。

⑤ 各ユニットの目標に対して目標管理活動を通して達成を目指す。
介護福祉士・介護支援専門員などの資格取得に向け、積極的に受験をすすめる。

2　財務基盤の安定

① 稼働率　特養９６%、短期入所９０%、を達成する。
小規模多機能　登録定員（24 名）に対する登録者数１００%を目指す。

3　働き甲斐のある職場の実現

① 職員個々の思いや目標を達成できるよう面接を継続的に行い、それぞれが考える自分の将来像の構築と達成を支援していく。

4　地域福祉と地域貢献

① 地域行事には住民の一人として利用者と共に積極的に参加する。ぬくもりネットワークの活動に参画し地域の人々との交流を大切にする。

② 運営推進会議を２ヶ月に１回（奇数月）開催し地域ニーズを把握する。

③ 高島市、高島市社会福祉協議会と連携し子供の居場所づくりとして「フリースペースさわのそよ風」を継続して行う。

2025 年度　ケアハウスじゅらく 事業計画

定員：20 名（内２人部屋１室）

ゆたか会の理念である「隣人愛のもと誰もが安心して、湖西の地でこころゆたかに暮らせるよう、この地の特性を活用して、地域社会の人びとの思いに応えよう」のもと、新たな人生の住まいの場として入居後も住み慣れた地域や顔馴染みの関係を継続でき、安心・安全・豊かな生活の場となるよう自らサービスを選択し、「身体的自立」、「精神的自立」、「社会関係の維持・拡大」の三本柱を基本とし総合的に援助が出来るよう事業を実施する。

基本方針

“好きです！ゆたか会”“高島も福祉も自分もゆたかに”をスローガンに

- 入居者の自主性、自立性を尊重し、一人ひとりの生活を支えるケアを提供する
- 生活しやすい居住空間、地域との結びつきを大切にする
- 入居者の趣味・教養・娯楽等への協力と支援を図る

１．サービスの質の向上

①在宅福祉サービスとの連携による生活の質の向上を図る
②介護予防への取り組みとして余暇活動の充実、臨床心理士の面接によるセラピー、理学療法士による健康体操を継続する
③定期的に運営懇談会を実施し、入居者の意見や要望を反映した運営に努める
④入居者が生きがいをもった暮らしが送れるように個々の変化や悩み事を把握し、早期に対応することで快適な生活の場とする。また生活を送る場所として適切な支援を考える
⑤要介護の入居者に転倒防止の「居住環境のチェック」の実施と検証ならびに助言を継続する
⑥防災対策（BCP）委員会と連携し、防災意識向上と自助、互助、共助への取り組みを推進する
⑦目標管理活動、3S 活動、個人面接の実施により職員相互の問題解決能力、コミュニケーション能力、チーム向上を目指す

２．財務基盤の安定と設備改修

①予算の執行状況を共有化するために事務センターと連携を図る
②日々の経費節減に努める
③空調設備の更新の検討

３．働き甲斐のある職場の実現のために

①職員の負担軽減をするためのメンタルヘルスと風通しのよい組織風土をつくる
②ワークライフバランスに配慮した職場環境を推進する
③職員が働きやすい職場は、利用者が安心して楽しく過ごせる場であることを常に意識する

４．地域福祉と地域貢献

①地域との共催行事や活動への参加を積極的に行う

２０２５度　清湖園　事業計画

定員：施設入所５０名・生活介護４０名・短期入所４名・日中一時３名・Ｂ型２０名

法人理念「隣人愛のもと誰もが安心して暮らせるよう、湖西地域の特性を活用して、地域社会の人々の思いに応える」の浸透および行動促進を実現していくことを念頭におき、今後の清湖園での『働く』日中活動メニューのことも含め、ほろん拠点との協働を具現化しつつ、「地域交流スペース」を繋がりながら広めていく空間として活用できる仕組みを作っていく。

また、わーくる夢Ｂ型が清湖園拠点となったことで、利用者の活動・交流の場として、職員の学びの場として、より一層の連携をすすめていく。

基本活動方針

“好きです、ゆたか会”“高島も福祉も自分もゆたかに”をスローガンに
誰もがどの地域において安心して生活が送れるよう地域ニーズへの対応を積極的に行う

1．サービスの質の向上

①日中活動（余暇活動含め）の支援が充実するよう委員会とも協同し、その人らしい生活が送れるよう意思決定支援について取り組む。

②職員一人一人の支援を振り返る場を設け、障害者虐待防止の意識の徹底・支援の質の向上を目指す。

③転倒・転落事故の原因分析により、再発防止に向けた取り組みを行い利用者個々に応じた適切な支援に繋げる。

④法人フードサービス係と食事に関係する委員会・食事支援係の連携を図り、協同しながら取り組みを行う。

⑤サービス提供の基本となる法令、報酬の仕組みや身障協ケアガイドラインや個別支援計画等について、職員の理解を深めるため、研修の機会を確保する。

⑥地域に対して開かれた施設運営と透明性を確保していくために地域連携推進会議を定期的に開催する。

⑦Ｂ型事業所との交換実習を行い、仕組みや技術の習得、連携を目指す。

2．財務基盤の安定　＊経営に関する意識の醸成

①稼働率（収支等）状況の説明、適切な予算執行や水道光熱費等の経費節減に取り組む。

②入所定員充足の維持に努めながら、緊急時受け入れも含めた短期入所の稼働率 UP に向け、自立支援協議会等での広報活動を実施する。　＊目標稼働率：施設入所 94%　短期入所 50%　生活介護 98%　Ｂ型 73%

③施設内の不具合箇所を把握し、優先順位を評価しながら必要な修繕を行っていく。

3．働き甲斐のある職場の実現

①働き方改革を進めるために、業務の効率化・適切な勤務時間を把握しながら、有給休暇取得の取組を継続する。

②職員間の相互理解を深めるため「報・連・相」の徹底や日常的なコミュニケーションの確保に努める。

③法人で取り組んでいるプロジェクトに多くの職員が参加する機会を作り自己の成長に繋げる。

④役職者を中心に個別面談を定期的（６か月に一度）に実施し意見を聞きながら働きがいのある職場づくりを目指す。

⑤業務の効率化（会議・委員会の見直し）、時間外労働（オンコール体制）の縮減の取組を行っていく。

4．地域における公益的な取組の実施

①1 階地域交流スペースを「つながり広がるプロジェクト」（ぽこ）の活動拠点として地域での見守り体制・参加支援体制を構築していくと同時に地域サロン「つどいカフェ」を周辺事業所と協力し実施する。

②地域生活支援拠点等整備に向け、ほろん拠点と連携し緊急時の迅速・確実な支援の実施と短期入所の活用を目指す。

③子どもの居場所づくりとして「フリースペースゆったり」の提供を清風荘と共に行う。

※「誰一人取り残さない防災の実現を目指す」を具体的にしていくため、清風荘拠点と連携し災害時におけるＢＣＰ訓練の実施、施設機能強化を図る。

２０２５年度　湖西総合在宅サービスセンターほろん　　事業計画

事業名：就労移行支援（定員 10 名）就労定着支援、ホームヘルプ、
居宅介護支援、計画相談、社会参加、働き・暮らし応援センター

法人理念『隣人愛のもと誰もが安心して暮らせるよう、湖西地域の特性を活用して、地域社会の人々の思いに応える』　職員が意識し、「自分にとっての理念とは」を考え行動する。

ほろん拠点を設立した時の法人の思いを今一度振り返り、建物の活用方法を具体化していく。普段感じている地域の課題を自分ごととしてとらえ、地域課題にこたえられる拠点を目指す。困った時に訪れるのではなく、高齢・障がい・生活困窮・子どもなど誰もがほろんで過ごせ、支援者や利用者の枠を超え、つながり助け合える場を作る。

まちに出かけることを継続し、清湖園や地域とのつながりを更に強化していく。

「ほろんに行ったら誰かに会える」拠点を目指し、訪れやすい環境づくりを具体化していく。

活動方針【福祉拠点をまちにひらく】

『すべての壁をとっぱらえ！！』地域との壁・制度の壁・施設や関係機関との壁をなくす。

『認め合い・助け合い・感謝の気持ち』

・所属する事業以外のことも考え、意見を出し合い尊重し、助け合える職場づくりを目指す。

・笑顔で「ありがとう」といえる職場環境をつくる。

１．サービスの質の向上

①就労移行支援事業を単独事業として考えず、他の事業や地域住民と協働で展開する。メニューあっての利用者ではなく、利用者に合わせたメニュー・施設づくりを地域課題とともに考え運営する。

②苦情要望についてブラッククレームとホワイトクレームを判別し、適切なサービス提供につなげる。

③BCP 訓練の実施、個別避難計画を随時作成し、災害時にもサービスが提供できる体制を整える。

④研修の実施や参加を積極的に行い、基本報酬が下がることによる質の低下を発生させない。

２．財務基盤の安定と設備改修

①４月に再開する就労移行支援事業について、これまでのノウハウに加え、法人各施設での働く体験の場の提供、働き・暮らし応援センターとの連携を強化し一般就労へ送り出す。

②新たに創設される就労選択支援事業の開設準備を行い、１０月からの新規指定とスムーズな受け入れを行う。

③ほろん会館の一階を地域づくりスペース、二階を事務所になるよう具体化し、改修工事を実施する。

④ホームヘルプの空き情報の発信、ケアマネとのつながりを強化し、契約利用者数を安定させる。

３．働き甲斐のある職場の実現

①「おはよう」「お疲れ様」「行ってらっしゃい」「お帰り」の声を大切にする。

②ICT 活用や業務に合わせたスライド出勤など働き方の工夫を行い、休憩時間の確保と定時帰宅を目指す。

③ほろん改修により、職員が働きに来ることに楽しみがもてるオフィスを創る。

４．地域に向けて

①ほろん会館一階を子どもからお年寄りまで制度関係なく寄りあい、つながる場に改修する。

②西区サロンへの継続した参加や、地域のイベントへ参加する。普段の業務の間をうまく利用して地域の一員として一緒に楽しむ。

③地域のコミュニティ通貨ビワコを活用し、地域とのつながりを深める。